

1 重点取組事項

- 1 「防災教育全体計画」「防災教育年間指導計画」「災害（地震）対応マニュアル」の作成
- 2 防災教育に関する授業の実施（理科・社会・道徳・学級活動等）
- 3 異年齢集団（地区子供会を基本とした縦割りグループ）を活用し、児童の「自助」「共助」の力を高める防災教育の実践
- 4 地域と連携した防災教育体制の確立（中学校区4校 共通）

2 今年度の取組状況

1 「防災教育全体計画」「防災教育年間指導計画」「災害（地震）対応マニュアル」の作成

(1) 小中9年間を見通した防災教育

中学校区4校で「防災モデル校連絡協議会」を組織し、小中9年間で身につけさせたい「自助」「共助」の力を検討した。その上で、児童生徒の発達段階を考慮し、「低学年・中学年・高学年」「中学生」それぞれの段階で身につけるべき具体的な力や目指す姿を明記した資料を作成し、共通理解を図った。

(2) 防災教育全体計画

「地域や児童の実態」「教科・領域との関連」「地域・保護者との連携」を重視し、「9年間を見通した防災教育」という考え方を取り入れた本校の「防災教育全体計画」を作成した。

(3) 防災教育年間指導計画

学校教育活動全般を防災の視点から広く見直し、各教科・領域の指導と防災教育とを関連づけて再構築する作業を行い、「防災教育年間指導計画」を作成した。

(4) 災害（地震）対応マニュアル

災害対策本部の組織や避難所の開設・運営の支援をはじめとする災害発生時の対応についてマニュアルを作成し、全職員で共通理解を図った。

2 防災教育に関する授業の実施（理科・社会・道徳・学級活動等）

(1) 校内体制の確立

研究推進委員会のメンバーに防災主任、安全主任、生徒指導・特別活動・地域連携担当の教員を加えた「防災教育推進プロジェクト」を組織し、本校の防災教育への取組について話し合った。また、授業実践の時期や内容、指導案の形式などについても検討し、職員会議で提案した。



6年道徳の授業

(2) 校内研究としての取組

防災教育を校内研究の対象とし、授業実践を中心に全職員で取り組んでいる。授業実践については、「略案を作成し、全員が授業を行う。」という考え方を基本とし、授業を行う教科・領域については「年間指導計画」の中から、学年ごと選択して決定することとした。指導案の作成や資料作りについても学年で行い、授業後の反省・まとめは学年部ごとに行った。

(3) 防災教育に関する授業

本校が平成24年度に取り組んだ防災教育に関する授業の内容は、以下の通りである。

1年「学校の行き帰り」(学級活動)	2年「いのち(生命の尊重)」(道徳)
3年「地しんにそなえて」(学級活動)	4年「安全な暮らしを守る」(社会)
5年「流れる水のはたらき」(理科)	5年「情報を生かすわたしたち」(社会)
6年「うちらねこの手ボランティア」(道徳)	6年「大地のつくりと変化」(理科)
きこえの教室「自分のきこえについて考えよう」(自立活動)	
ひまわり学級「冬の日の過ごし方」(生活単元学習)	
ことばの教室「安全に避難しよう」(自立活動)	

3 異年齢集団（地区子供会を基本とした縦割りグループ）を活用し、児童の「自助」「共助」の力を高める防災教育の実践

(1) 本校の縦割り活動

地区の子供会を基本に縦割りグループ（24年度は30班）を組織し、高学年の児童がリーダーとなって活動内容を考え、「仲良く遊ぼう集会」「遊ぼう・作ろう集会」といった内容で年間4回実施している。また、毎年秋には、縦割りグループごとに野草園まで歩いて行く「縦割り遠足（わんぱく大作戦）」を行っている。

(2) 縦割りグループを活用した防災教育（地域安全マップ作り）

10月26日、地域の危険箇所や安全な場所を確認し、児童の防災意識を高めることをねらいとして縦割り活動を行った。事前にリーダーが地域の安全な場所や危険な場所、防災対策などについて調べ、それをもとに保護者や町内会の方々にも参加していただきながら話し合い、「地域安全マップ」を作成した。また、縦割り活動終了後には、地震などの災害が発生した際の行動や連絡の取り方、集合場所など、家族での約束事を話し合い、確認してもらうための「家族防災会議を開こう」カードを各家庭に配布した。記入したカードは、各家庭ごと見えやすいところに掲示していただいた。



縦割り活動

4 地域と連携した防災教育体制の確立（中学校区4校 共通）

(1) 生涯学習事業との連携（長町中学校区防災モデル校連絡協議会）

【ながまち学びネットとの連携した取組】

- メンバーによる人的支援 「子ども防災キャンプ in 鹿野」への小・中学生の参加。

(2) 防災キャラクター選定（長町中学校区防災モデル校連絡協議会）

【長町中学校区青少年健全育成連絡協議会との連携した取組】

- 標語・ポスター、の募集と併せて「防災キャラクター」を小中学生から募集。

(3) 「地域ぐるみ防災教育フォーラム in 長町」（長町中学校区防災モデル校連絡協議会）

【東北大学災害科学国際研究所、各小中学校PTA、太白区、太白区中央市民センター等多数の地域団体との共催による取組】

- 地域の子供たちの防災教育に関わる大人のための研修会。参加者約300名。

3 成果と課題

1 長町中学校区モデル校連絡協議会での取組を通して

- ・各校の取組を共有することにより、地域の安全マップ作りを3校の小学校で行うこととなり、共通の防災に関する学びを体験して中学校に進学する流れができた。
- ・担当者の協力により、防災教育フォーラムのような大規模な取組を実施することができた。

2 防災教育に関する授業実践を通して

- ・校内研究として授業実践に取り組んだことで、防災教育に対する職員の意識が高まった。
- ・防災教育の授業や縦割りグループによる「地域安全マップ」作りに取り組んだことで、児童の「自助」「共助」の力を高めることができた。

3 小中9年間を見通した防災教育の取組を通して

- ・小中9年間で身につけさせたい「自助」「共助」の力について4校で検討した。その上で、児童生徒の発達段階を考慮し、「低学年・中学年・高学年」「中学生」それぞれの段階で身につけるべき具体的な力や目指す姿を明記した資料を作成した。この取組によって、小・中学校間で共通理解を図ることができ、本校の防災教育にも生かすことができた。

4 年間指導計画の作成

道徳や総合的な学習の時間、学級活動の中にどのように防災教育を位置づけていくか、また、

副読本をどのような形で活用していけばよいかなど、指導計画の内容について、発達段階や系統性を考慮しながら改善し、自校化を図っていく必要がある。

5 防災教育に関する授業実践

教科としてのねらいがある中で、防災教育としてのねらいを設定し、達成することに難しさを感じた職員が多かった。教科の指導と防災教育をどのように結びつけていくかを中心に、指導内容や方法も含めてさらに検討していきたい。